

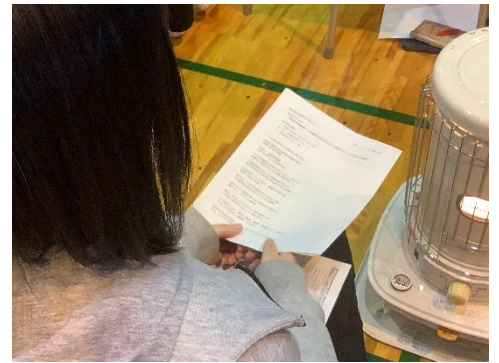
12月6日(金)3,4校時第2体育館において、来年度から本格的に行う探究活動の導入として、学年主任によるガイダンスが実施されました。

1 学年は、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)に指定された初年度学年にあたるので、ただの調べ学習に終始するのではなく、仮説を設定し、客観的な検証方法の下で検証し、事実の比較、因果関係を考察し、仮説の再設定をサイクルし、解決に繋げる一連の探究活動を行うことを目標であると生徒に伝えておりました。合わせて、この活動を通じて批判的思考(クリティカル・シンキング)を身に付けることを目標にしているとのことでした。批判的思考が身につくことで、これから行う探究活動、大学進学後における研究において、探究の質が向上し、本質を見抜く力が養うことができます。また、多くの人に探究した内容を発表し、評価されることも必要です。これは自分だけの見地に固執せず、他者の見地も含めることで、より深い、多角的な考察に繋げることができるからです。

さらに、意見と事実の違いも説明してくれました。意見とは、主観的で観察できないものに基づいた見解であり、事実とは客観的で観察できるものに基づいて述べた見解である。探究活動は、データや数値などの客観的な見解に基づいて意見を主張していく必要があります。

探究活動では、テーマの範囲を絞ることも大切です。テーマ設定が広すぎると、課題解決に向けた焦点化が曖昧になり、十分な成果を得ることができません。テーマを絞ることで資料やデータを見つけやすくすることで先行調査の時間を短縮することができ、その分考察に時間をかけることで探究の質を高めることができます。

そのようなことを踏まえれば、五所川原市の課題に取り組むことがよいのではないかと提案してくれました。理由は、私たちが1年かけて地域探究をしてきたので、身近なテーマだからです。また、五所川原市総合計画のリーフレットを参考にすれば、市の現状、課題、課題の対象者、根拠になるデータの出典も書かれているので、より深く探究することができます。



【生徒の感想】

- 総合的な探究は、主観的なデータではなく、客観的なデータがとても大切で、その数値の読み取りについて学びたいと思いました。
- 常に疑問を持ち続けて失敗を恐れずに常に正しいを探して問い続けることが大切だとわかった。一年生からしっかり考えていかないといけないことに気付かされた。
- 探究する上での注意事項や進め方を細かく知ることができました。「それってあなたの感想ですよ」や、批判にめげずに進めていきたいと思いました。
- 探究はある程度資料が揃っているものを選んだらいいことがわかりました。来年は積極的に発表などをしたい、どんな質問が来ても返せるように深いところまで探求を極めていきたいです
- 探究したことについて主観的な意見ではなく、客観的に考えること、正確なデータを利用して明確なまとめ方をすること、否定ではなく批判的な意見を貰った時、答えられるようになるくらいまでに探究していく事が大切だとわかった。